

長崎放送

活動名	平和文学朗読キャラバン
実施期間	令和 7 年 6 月～ 7 月
実施回数	会場 5 回

【事業実施の成果・課題】

長崎・佐賀の小学校や中学校 5 団体で実施。対象は小中学生。

アナウンサーが 2 人で学校を訪問し、

- ① 原爆についての話
- ② 長崎原爆の紙芝居朗読
- ③ 子どもたちと一緒に朗読する作品
- ④ 平和について考えるワークショップ形式

「平和について考える」をテーマに、聞くだけではなく、子どもたちに「戦争・平和」について自らの事として捉えてもらい、考えるきっかけ作りに努めました。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

被爆から 80 年が経ち、長崎・広島では、語り部（被爆者）の高齢化が進んでいます。この節目の年、改めて原点に戻り、全アナウンサーが意見を出し合い、企画・運営を行いました。そして、子どもたちに「平和・戦争」を他人事としてとらえることなく、自分事として考え、平和への一步を踏み出すきっかけ作りに努めました。

「被爆地の放送局のアナウンサーの私たちにできることは何なのか。」
今後も、状況を鑑みながら私たちなりの分析が必要だと実感しています。いかなる状況でも、子どもたちに「平和の尊さ」を伝える活動は絶やしたくない。この思いを改めて感じているところです。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

5 団体・1243 人の児童生徒に参加頂き、感想文を送って頂きました。
その中から一部を原文のまま抜粋致します。

＜小学生の感想＞

わたしはせんそうはいけないと、おもいます。なぜならいろいろなへいきで大ぜいの人なくなっています。それに、じげんばくだんもぜったいにだめだとおもいます。一かいおとしただけで何千人や何万人もなくなってしまうのですから。ぜったいにげん子ばくだんはかいはず、あげる、もらうをぜったいにしてはなりません。そのばくだんなどがちがう国におちたらその国がおそってきたと思うかもしれません。だからせんそうはしてはいけません。いまでもちがう国がせんそうをしています。でもせんそうはぜったいにしてはいけません。

＜中学生の感想＞

私は、これから差別がなく、誰でも仲良くなれる平和な世界にしたいです。80 年たっても過去の出来事を伝えられているのはすごいことで戦争が起こらない世の中にしていきたいです。ご飯をたくさん食べられていることや友達と楽しく遊んでいることは当たり前じゃなく、とても幸せなことだと気づきました。これから、みんなに優しく接していきたいです。